

枝の一生

大 和 檀

芋掘り遠足のあと、やき芋作りをしますが、神明幼稚園では、落ち葉や枝を、JR浜松町駅の南にあります旧芝離宮恩賜庭園に集めに出かけます。

せいちゃんは枝が大好きで、園校内や遠足でもよく枝を拾って遊びますので、「せいじは枝見つけるの得意」と言って大活躍です。そのせいちゃんの動きにつられて、ふみちゃん、さおちゃんも、「こんな枝見つけた!」と、どんどん拾うので、園から持っていった袋はパンパンを通り越し、私も三人もすごい荷物をかかえて門まで来ました。

芝離宮の受付けのおじさんが見かねて、「神明小ならそばだね。これを貸してあげよう」と、荷車を貸してくれました。

私がひもをかけた時は、枝がグスグスに落ちてしまいました。が、「どれかしてごらん」と言っておじさんがかけると、どの技も落ちません。「こんな短いひもですごい！」とおじさんの「技」に感心して町中を荷車をひいて帰りました。園に着くとすぐ、枝、落ち葉をおろし、私達年長組は荷車を返しに、今度は自分達

▼芝離宮での収穫

上にのっている枝が「自分の木」から「クリスマスツリー」になった枝です。



が荷車にのって行きました。

何と言っても浜松町の町中を、たくさんの枝や子どもがのって通るのですから、道中、サラリーマンから「おお!」「何するんだ」「いい自家用車だね」などと声をかけられ、私も荷車初体験で、記録を読み返してみると「近年にないおもしろい体験だった」と書いてありました。これは十一月一日のことです。

さて、枝の方ですが、次の日、やき芋作りに使う枝と、「これとっておく」という枝に分けられ、「とっておいた枝」はいつも自分達の保育室の前に置かれて、三人の生活の「友」となっていました。

枝はさらにカレー作りに使われたあと、「枝ぶりのいい枝」をそれぞれが選んで、「自分の木」が出来ました。

ふみちゃんは自分の木に鳥を、さおちゃん、せいちゃんはリスを作ったのせ、巣が出来たり、鳥、リスの「家族」が増えたりして、三人で人形劇やお家ごっこのように遊んでいました。この三人の木は、十一月の小学校と一緒の展覧会にも出品されました。

そして、十二月に入ると、三人の三本の木は一つにまとめてクリスマスツリーとなったのです。

この頃が、枝の「華の時」でしょう。

この間、棒の様な枝は、雪や氷をかきまぜるのに使われたりサッカー遊びの線引きに使われたり、ピストルの様に使われたり……。



▶ 「自分の木」で遊ぶ三人。ふみちゃんの木（上右）の右はじの白いは鳥の卵。さおちゃんの木（上中央）にはくまが遊びにきたそうです。せいちゃんの木（上左）の手前の白いはガリスの巣で、写真下手前の牛乳パックにのっているのがリスのお父さん。

▼お米を蒸しています

私もせいちゃんもさおちゃんもふみちゃん（見えませんが）もみんなが枝を手にかけています。

三学期には、モチつきがあり、クリスマスツリーとなった枝は、ついにお米を蒸す為のたき木となって消えていきました。

卒園の時まで残った枝は、結局、せいちゃんが、「これほしい」と言って家に持ち帰り、保育室の前にいつもあった枝はなくなったのです。

十一月～三月までの「枝の一生」の話です。

振り返ってみると、三人の生活



は、いつも十分な時間があり、ふみちゃん、せいちゃん、さおちゃんは、それぞれが自分のペースで、自分の生活と三人の生活の間を行ったり来たりしていました。

今、私のいます園は木にかこまれ、ちょっととした林もあります。

が、「枝の一生」の話はありません。毎朝、林の中を歩くたびに、「夢の日々」を思い出しています。

(まこと幼稚園)

▼拾ってきた枝は、たき木にされるだけではなく、火の様子を見る棒としても使われました。

